

シグマ研究委員会
昭和56年度 第9回運営委員会議事録

日 時 昭和 57 年 2 月 26 日 (金) 13:30~17:30
場 所 原研東海研 研 2 - 222 号室
出席者 原田 (委員長, 原研)
飯島 (NAIG), 大竹 (富士), 関 (MAPI), 塚田 (日大),
中嶋 (法大), 久武 (東工大), 松延 (住友原工), 五十嵐, 田中,
菊池 (原研)
オブザーバ : 木村 (京大炉), 梶山 (東北大), 中沢 (東大),
白方 (動燃), 松浦, 坂本, 梅沢, 田村, 内藤,
松本, 浅見 (原研)

配布資料

1. 第 8 回運営委員会議事録 (案)
2. 核種生成量評価 WG 作業計画
3. 崩壊熱評価 WG 57 年度計画
4. 核融合炉・遮蔽定数 WG
5. JENDL 積分評価 WG
6. 熱中性子文献グループ
7. INDC/P (82)-1, NDS Meeting Schedule for 1982
8. 昭和 56 年度シグマ研究委員会名簿
9. 核構造データ WG
10. P. G. Young 氏から菊池氏への手紙

議 事

1. 前回議事録確認

資料(1)により確認を行い、一部の字句の訂正の上了承された。

2. 医学用核データ活動について

原田氏から次のような説明があった。先に行ったアンケート調査の報告書は現在印刷中である。医学用核データの調査活動を続けて欲しいとの要求があるが、最近、放医研の所長から原研理事長宛に医学用データの収集活動は原研でやって欲しいとの要請があった。調査活動の構想は改めて提案する。これに対して、医学用データはこれまでのシグマ委の範囲をこえるので十分検討する必要がある、アンケート結果をJAERI-memoにすると引用できないので困る等の意見があった。

3. IAEA/NDSの予算削減について

原田氏から前回の続きとして、その後、科技庁の調査国際協力課へ赴きNDSの仕事の重要性を伝えたことが報告された。

4. 特殊目的核データの ad-hoc 小委員会

3月24日に第2回目の会合を行うことが報告された。また、“特殊目的”と云う名前は適当でないので、それも含めて検討して欲しいとの要請があった。

5. Antwerp Conf 提出論文

五十嵐氏から、category Aの invited talk には、“燃料サイクル核データ(梅沢氏)”を推薦したことが報告された。また、菊池氏の“JENDL-2ベンチマーク・テスト”、秋山氏の“decay heat”が提出されているとの説明があった。

原田氏からIAEAの主催で Nuclear Data for Mining and Industry の会合を開くに当たり、日本の問合せ先を紹介して欲しいとの依頼がIAEA NDS よりきているが、適当な人がいたら知らせて欲しいと要請があった。

6. 57年度計画

(1) 熱中性子文献グループ

坂本氏から資料(6)にもとづいて 57 年度作業計画について説明があった。その中で文献データを格納するのに既存のプログラムを使うことで検討してきたが、印刷のための出力等に支障があるので新たにプログラムを整備する必要があるとの説明があった。

文献収集作業を国際協力で行うことのその後の経緯について質疑応答があった。

(2) ポスト燃料サイクル核データ WG

梅沢氏から、これまでの経緯の概略の説明があり、新 WG のリーダを内藤氏（原研）が引受けてくれたことが報告された。次いで内藤氏から資料(2)により新設の WG で行う作業内容、WG メンバー予定者等について説明があった。解析上の問題点等について議論があった、WG の名称は“核種生成量評価 WG ”とすることにした。

(3) 核融合炉・遮蔽定数 WG

中沢氏から資料(4)をもとに、56 年度の活動の概要と 57 年度の計画について説明があった。

(4) トリウム・サイクル核データの作業について

前回からの継続審議として、まず木村氏から文部省の科研費で京大炉を中心に行っているトリウム系燃料の問題の研究の現状について説明があった後、シグマ委としてこの問題をどうとり挙げるかについて議論を行い、次のような意見が出た。

- 燃料サイクル全般をとり挙げるのならトリウムサイクルも考慮すべきであるが、WG をつくってまで調査する必要があるかは別である。
- 原子力開発の重点は U-Pu 系にあるので、トリウムの方まで手を出す必要はない。
- 多様化も必要である。
- 時期早尚である。
- U-Pu 系のような調査はできないが、問題点を抽出する調査なら考えられる。

- 世の中で問題になった時、シグマ委として何もしないと具合の悪いことはないか。等々。

これらの議論の結果、トリウム・サイクル核データについてWGをつくって作業を行うことは、当分の間、見送ることにした。

(5) 崩壊熱評価WG

松本氏から資料(3)により、WGの56年度作業報告と57年度計画の説明があった。これに対して、スペクトル計算は各方面から要望されていること、同じ部会内のWGで使用するコードが異なることなどについてコメントや意見があった。

(6) 核構造データWG

田村氏から資料(9)によりWGの現状と57年度の活動方針等について説明があった。

7. 名簿の改訂

57年度の本委員について、先に事務局から内規にもとづいて各本委員に郵便で問い合わせをした結果が、浅見氏から報告があった。留任については諾23名、否5名、無回答2名であったこと、本委員への推薦、意見等が報告された。これらをもとに審議を行い、新たな本委員の候補として白方敬章氏、松浦祥次郎氏、関 泰氏、中沢正治氏、大林治夫氏、村田徹氏が挙げられた。また、飯島氏は辞任の希望であるものの、残って欲しいとの意見もあり、事務局でこれらの意見を勘案して57年度本委員の名簿案を作成し、内規に沿って郵便で賛否を問うことにした。

次回は3月26日(金) 13:30より、原研本部で行う予定。